

倉吉市山ノ下遺跡の発掘調査成果から

森本 倫弘

1、調査の概要

事業名：一般国道 313 号（倉吉関金道路）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

<平成 28 年度調査>

調査面積：平成 28 年度：7,000 m²

調査期間：平成 28 年 6 月 1 日～ 11 月 30 日

<平成 30 年度調査>

調査面積：平成 30 年度：5,000 m²

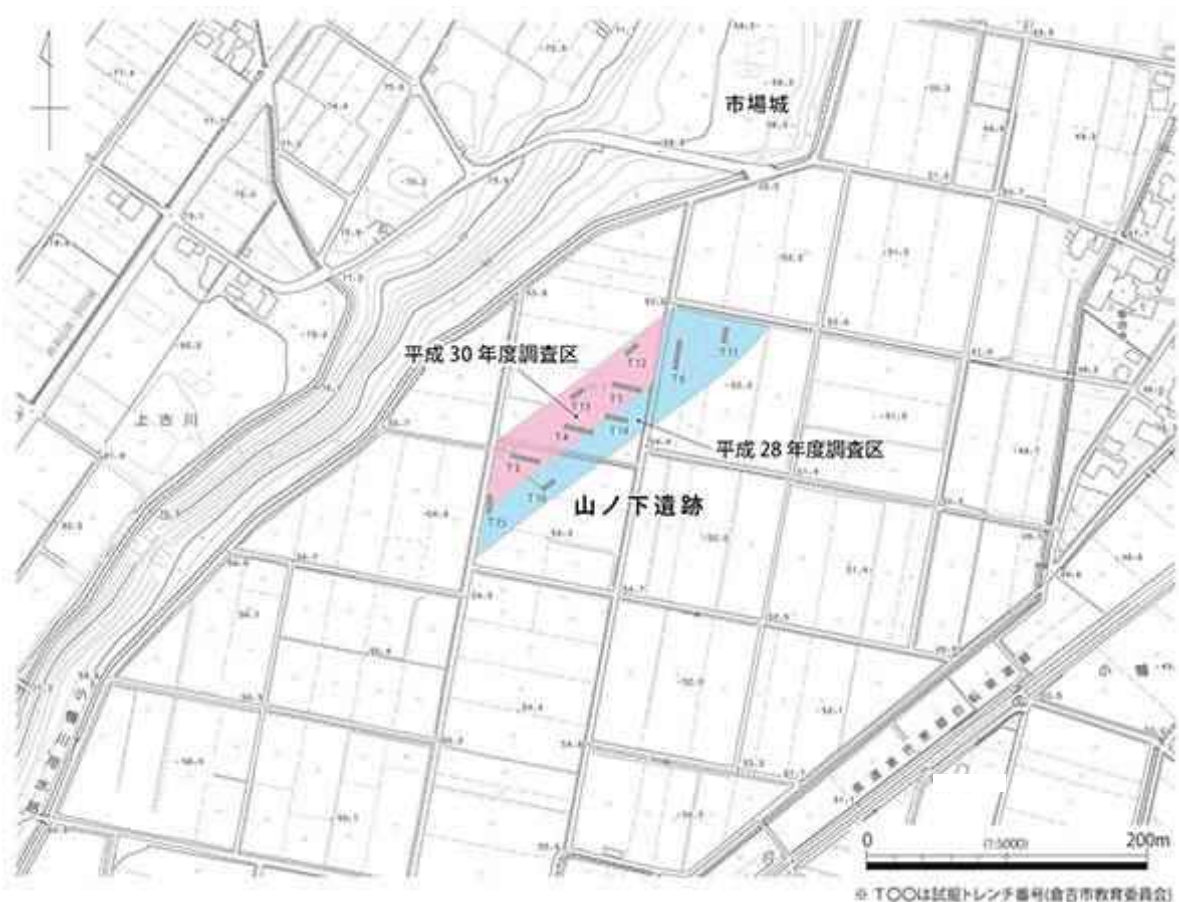
調査期間：平成 30 年 5 月 10 日～ 12 月 27 日

2、遺跡周辺の様子

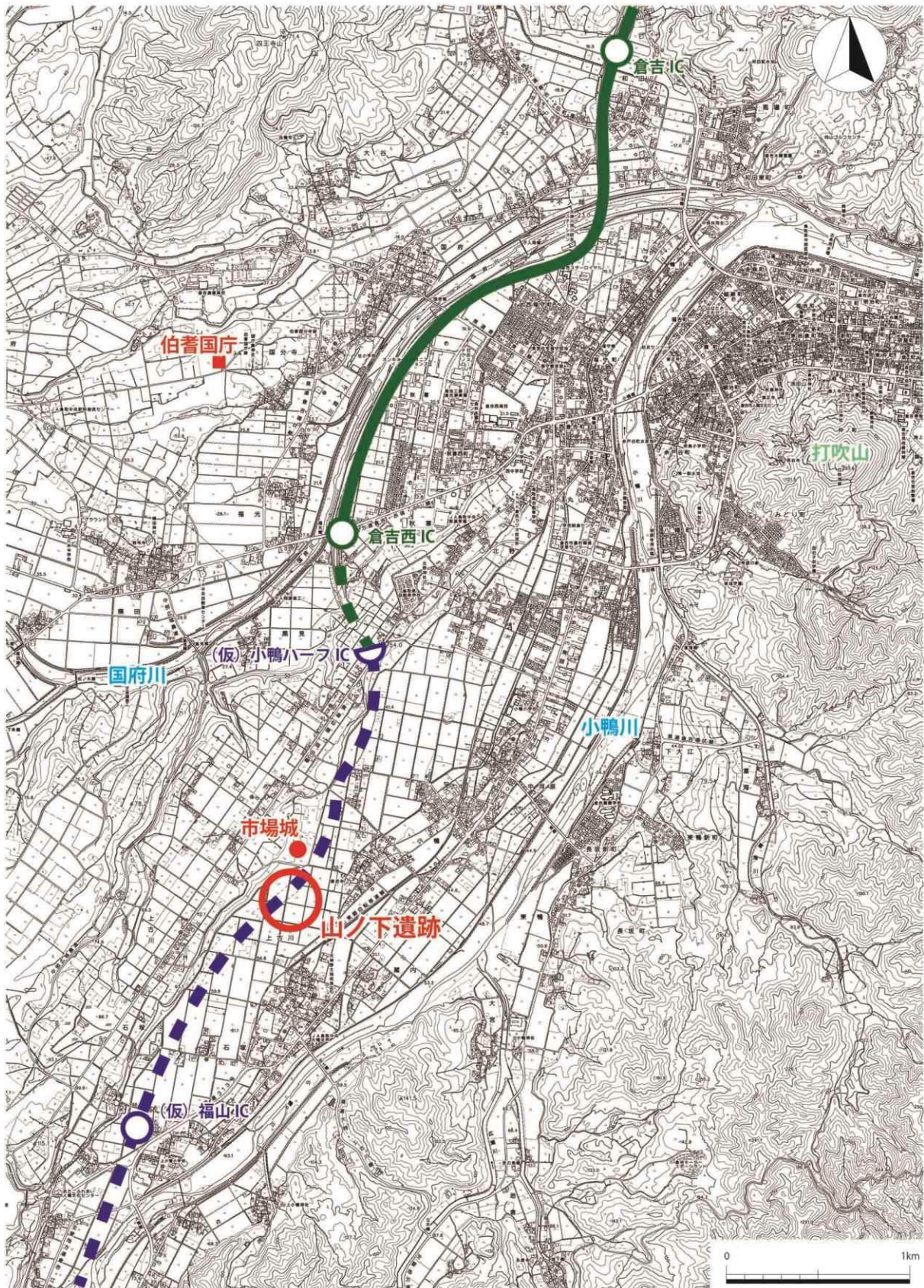
○倉吉市小鴨字山ノ下及び上古川字北田に所在。

○天神野台地（通称）の東側裾部、小鴨川の河岸段丘上に営まれた遺跡。

○遺跡北側には市場城が近接する（山ノ下遺跡から約 150m）。



調査区周辺の地形



調査区位置図

3、遺跡の概要

○縄文時代

- ・落とし穴が 19 基検出。→ 狩猟の場。

○弥生時代中期（約 2150 年前）

- ・溝を 1 条検出。→ 全長 140m 以上。
- ・土坑を 4 基検出。

○古墳時代前期（約 1700 年前）

- ・土坑を 2 基検出。→ 墓？

○平安時代終わり頃から鎌倉時代（約 770～970 年前）

- ・掘立柱建物を 21 棟検出。→ ほったてばしら 側柱建物、ひさし 総柱建物（ひさし 廂付建物、大型建物を含む）。
- ・建物以外では、溝、土坑などを検出。

○室町時代（約 470 年前）

- ・耕作関連遺構を検出。→ 集落から耕作地へと土地利用が変化。

○江戸時代末以降（約 150 年前）

- ・溝を 1 条検出。→ 暗渠？



縄文時代

600 土坑（落とし穴）の土層断面



弥生時代中期

1004 土坑遺物出土状況



古墳時代前期

288 土坑遺物出土状況

室町時代

1～3 田検出状況

4、平安時代の終わり頃の建物

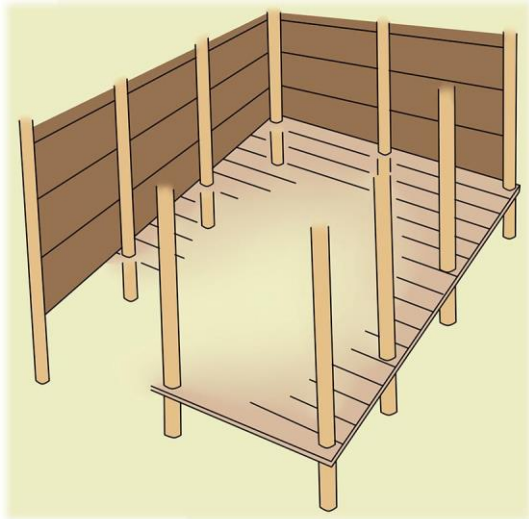
1) 企画的な配置の大型建物

- ・L字状に配置された大型建物を大きく2時期に渡り造営（11世紀後半から12世紀）。
- ・大型建物は公の施設（^{まつりごと}政）に使用）と私的な施設（居宅）のセット？
- ・柱穴の大半で、柱が抜き取られている。→ 柱を再利用。
- ・柱穴に柱の一部（柱根）が残っていたものがある。→ 樹種同定。年代測定。
- ・柱穴に基礎固めを行い、強固な造り。
- ・柱を抜き取ったあと、完形の土器が埋納された柱穴がある。
- ・遺物は土師器の皿や坏を中心とし、須恵器、貿易陶磁などが出土。

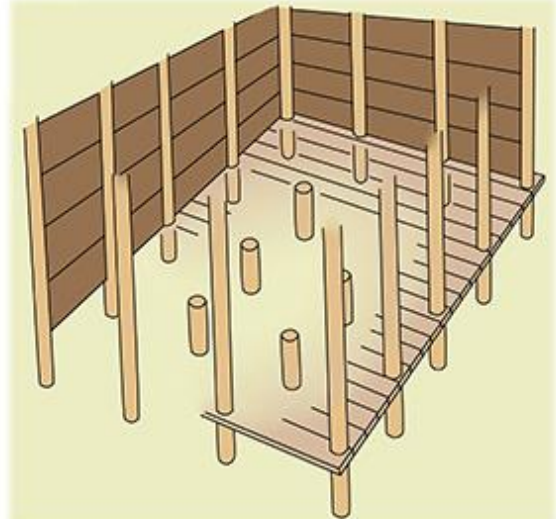


大型建物周辺の完掘状況

(平成 28 年度撮影航空写真と平成 30 年度撮影航空写真を合成した写真)



側柱建物の構造



総柱建物の構造

大型建物計測表

建物名称	建物区分	規模(m)		面積(m ²)	主軸方位
		桁行	梁行		
掘立柱建物 13	総柱建物	8間(19.64)	5間(12.1)	237.6	N-79° -W
掘立柱建物 19	総柱建物 (廂付建物)	建物全体		建物全体	N-11° -E
		5間(11.4)	4間(7.1)	80.9	
掘立柱建物 12	総柱建物 (廂付建物)	建物全体		建物全体	N-79° -W
		9間(20.55)	4間(8.05)	165.4	
掘立柱建物 20	総柱建物 (廂付建物)	建物全体		建物全体	N-12° -E
		4間(8.6)	4間(8.1)	69.7	



掘立柱建物 13

723 柱穴柱根出土状況



掘立柱建物 13

717 柱穴礎盤石出土状況



掘立柱建物 13
705 柱穴根巻き石出土状況



掘立柱建物 13
707 柱穴根石出土状況



掘立柱建物 13
713 柱穴遺物出土状況



掘立柱建物 13
713 柱穴底面直上遺物出土状況



掘立柱建物 13
718 柱穴遺物 (越州窯青磁) 出土状況



掘立柱建物 19
3166 柱穴遺物出土状況

2) 大型建物の付属施設

- ・小型の総柱建物（掘立柱建物 15）を検出。→ 倉庫？
- ・屋敷地を区画する溝を 2 条（794・3010 溝）検出。→ 約半町程度の区画。
- ・屋敷地西側を区画する溝（3010 溝）に多量の土器を廃棄。
- ・廃棄土坑（土器を廃棄した穴：3056 土坑）を検出。



区画溝

3010a 溝遺物出土状況



区画溝

3010b 溝遺物出土状況



区画溝

3010b 溝遺物出土状況



区画溝

3010b 溝遺物出土状況



廃棄土坑

3056 土坑遺物出土状況

5、鎌倉時代の建物

○集落遺跡

- ・ 企画的な配置をとる大型建物はみられなくなり、集落的な様相。
- ・ 廂付の総柱建物、小型の総柱建物などで集落が構成される。
- ・ 柱穴の大半で、柱が抜き取られている。→ 柱を再利用。
- ・ 柱を抜き取ったあと、完形の土器が埋納された柱穴がある。



掘立柱建物 6

277 柱穴遺物出土状況



掘立柱建物 6

278 柱穴遺物出土状況



掘立柱建物 9

132 柱穴遺物出土状況



掘立柱建物 11

471 柱穴遺物出土状況

6、主な出土遺物（平安時代の終わりごろから室町時代）

- 掘立柱建物の柱穴や溝、土坑などの遺構のほか、包含層などから出土。
- 土師器、須恵器、貿易陶磁、国産陶器、錫製品などが出土。
- 土師器の皿・坏（供膳具）が出土遺物の大半を占める。
- 越州窯青磁は国庁のような特別な施設から出土することが多く、貴重品である。
- 貿易陶磁の出土点数に対して、壺類のような優品が占める割合が多い。
- 鎌倉時代の手づくね土器の皿や羽釜などには、畿内の影響がみられるものがある。



3010 溝出土 土師器皿



3010 溝 土師器坏・高台付坏



3010 溝出土 土師器柱状高台



3010 溝出土 須恵器椀・坏・壺・甕
初期備前坏



3010 溝出土 白磁椀



3010 溝出土 錫製品

7、小鴨地域の有力者

○小鴨氏

- ・伯耆国の在庁官人（行政の実務に従事した地方官僚）から成長した武士。
- ・小鴨地域を本貫とし、岩倉川上流の岩倉城を本拠とした。
- ・山ノ下遺跡に大型建物が造営される 11 世紀後半ごろには勢力拡大か？
- ・当初は平氏方であったが、平家滅亡後は鎌倉幕府の御家人となる。

小鴨氏略年表

西暦	小鴨氏関連事項
664 年	小鴨氏の祖、小鴨主が天智天皇三年に「小鴨号」を賜る。
1020～1030 年頃？	小鴨基仁伯耆守に任ぜられる。
1179 年	治承三年に伯耆国ツホカミ山（現・淀江町の壺瓶山）で東郷庄の地頭東郷氏（原田氏）に勝利。
1182 年	寿永元年に平氏方の小鴨基康と源氏方の記成盛が合戦。小鴨氏敗北。
1192 年	建久三年に小鴨基康は源頼朝から御教書（みぎょうしょ）を下賜（かし）される。→ 地位を確保。
1213 年	小鴨政清が和田合戦に功を立て、美作国由井庄を賜う。
1453 年	享得二年に小鴨大和守が備前守護代として福岡城に入る。

8、まとめ

- 平安時代の終わりごろに、企画的な配置をとる大型建物が造営される。また、一般集落では出土しないような貴重な貿易陶磁が出土し、当該期の小鴨地域に有力者が存在したことが明らかとなった。
- 有力者の候補としては、伯耆国の代表的な武士団として知られる小鴨氏の可能性が考えられる。
- 山ノ下遺跡に造営された大型建物は、平安時代の終わりに急速に勢力を拡大した小鴨氏の主要な施設であった可能性が高い。

【お願い】

配布資料に掲載した図面や写真には、未公開資料が含まれます。

資料の複製や転載はご遠慮ください。